



虹の架け橋

平成30年6月11日
印西市立西の原小学校
校長室便り No. 7

地域の力

6月4日(月), 民生委員・児童委員及び主任児童委員の方々の学校訪問がありました。この方々は、高齢者や児童、子育て家庭、障がい者、生活困窮者など、援助を必要とする方たちへの生活相談や助言を行ってくださっています。学校訪問も行い、子どもたちの学校内外の生活について良さや課題等を共有した上で、改善に向けた助言等をしてくださっています。

今回は、特に安全対策について話題が集中しました。

まず、防犯についてです。小倉台・原山地区では不審者対策のため青いパトロールカーが巡回するそうです。西の原地区でも防犯組合と連携を図り、地域の方々に巡回できるように進めてくださっています。協力者を得ることが難しい状況ですが、地域の方々に子どもたちを守ってくださろうとしていることを大変心強く思いました。

続いて交通安全についてです。道路を横断する時、横断歩道だからといって左右を確認せずに飛び出す子、自転車で斜め横断をする子が多く見られるそうです。また、学校の近隣では宅地造成が進んでおり、トラックなどの車両が多く走っている状況なので、交通事故を大変に心配していただきました。「飛び出し」は最も多い子どもの交通事故原因です。昨年度に引き続き、今年度も4月に交通事故があり、校内でも、道路を横断する際は「一旦停止、左右確認」を共通指導しているところです。しかしながら、下校後の子どもたちに教職員がぴったりついて指導することは困難です。けれども、子どもたちが危険な行為をしているところに出合った時、民生委員さんが直接指導して下さっているお話を聞き、これも大変有難く思いました。下校後の子どもたちを地域の方々の目で見ると必要なご指導を頂けることは、子どもたちにとって幸せなことです。保護者の皆様もご自分のお子様に限らず、西の原っ子のために必要なご指導をいただけましたら幸いに思います。

最後に、西の原小学校の保護者の方に向けて「子育て中の保護者の方の中には、悩みを抱えていらっしゃる方もいることでしょう。そんな子育ての悩みに、地域に住む者として力になれば…」という力強いメッセージをいただきました。もし、お子様のことでご心配なことがございましたら、ご相談に乗ってくださるそうです。子どもの元気の源は「家庭」です。子育てへの心配事があって「元気」を奮い立たせられない方は、是非学校へご連絡を下さい。

今回の学校訪問で、子どもは、学校・家庭・地域の連携協力があってこそよりよき方向へ大きく伸びていくのだろうと改めて感じました。民生委員・児童委員及び主任児童委員の皆様、応援パワーをありがとうございました。



盛り上がったグリーンスクール



6月5・6日と5年生はグリーンスクールに行ってきました。場所は小見川少年自然の家です。天候が心配されましたが、一日目はよく晴れ二日目は雨が降ったもののカヌー体験の時は雨が上がり、活動を実施することができました。私は、キャンプファイヤーだけの参加になりましたが、5年生のパワーに驚かされ大変頼もしい思いでいっぱいになった一時を過ごすことができました。

キャンプファイヤーは、実行委員会の進行・運営で行われました。始めに点火の儀式です。友情の火、努力の火、協力の火、感謝の火が火の神から火の子へ分火されると、みんなで誓いの言葉を唱和しました。中央の薪への点火後これらの火が温かく、力強くみんなの心に燃え上がることを願い歌った「燃えろよ、燃えろ」の歌声は、会場を大きく揺さぶるようでした。

第2部は火の祭りです。最初はクラス対抗歌合戦です。勝敗は声の大きさやまとまりで判定します。結果は一对一の引き分けでした。どちらのクラスも、とても大きな声でまとまりよく歌えていました。続いて「キャンプだホイ」「マイムマイム」と「タタロチカ」を踊りました。誰とでも手をつなぎ楽しく踊る子どもたち。子どもたちの爆発力に終始圧倒されたキャンプファイヤーでした。



男女分け隔てなく様々なアクティビティを楽しむ5年生。目標である「絆を深める」ことができたのではないかと思います。行動力・活力のある5年生です。このグリーンスクールで学んだことを生かして、6年生とともに西の原小学校を牽引していくリーダーとして活躍してくれることを期待しています。



子育て四訓

先日教室を訪ねていくと、目に涙を浮かべた子に出会いました。筆箱に鉛筆が1本も入っておらず、どうして良いかわからなかったようです。また、字を書くには難しいと思える2cmくらいの長さの鉛筆しかない子もいました。幸い担任の先生が気づき、先生の鉛筆を貸していました。

山口県の前中学校校長である緒方甫さんが、長年の教育経験を基にまとめ上げた「子育て四訓」というものがあります。

「乳児はしっかり肌を離すな」

「幼児は肌を離せ、手を離すな」

「少年は手を離せ、目を離すな」

「青年は目を離せ、心を離すな」

「少年は手を離せ、目を離すな」とは、「少年は、友達との付き合いによって社会性が育つ時期なので、ここではしっかりと手を離し、活動範囲を広げてやらないといけない。ただし、いろんな危険があるので、目を離してはいけない。」ということです。小学生は、少年期に当たります。とは言え、1年生から6年生まで発達段階はまるで違います。低学年ならば、もうこれくらいのことは一人でできるだろうと目を離してしまうとまだできないことがあります。自分のことを自分でできる力を付けることが基本です。しかしながら、目を離してしまうと、できずに困ったり、できなくてもかまわなくなったりしてしまうかもしれません。過干渉でも放任でも駄目で、子どもへの関わり方というのは難しいものです。「目を離さずに手を離す」この言葉は、子育てへの大きな示唆を与えてくれるものではないかと思います。